

【立命館大学ファイナルセミナー】レジュメ

1 立命館大学の傾向と対策

I 文量：二一〇〇～一四〇〇字程度。

II ジャンル：歌論、日記、物語、説話集をはじめとし、あらゆるジャンルから出題される。正統派の文章が多

く、高度な読解力が要求されることもある。（今年度なら二月七日の『源氏物語』など）

III 問題：

〈学部・日程による傾向の違いはない〉

〈左記から8問出題される〉

◎ 〈文法〉

どの問題においても必ず出題される。基本的な文法問題が多い。一般的に頻出といわれる識別だけでなく、「こそ」「より」「ば」など広く文法の理解を問う。確実に点が取れるように対策しておきたい。

○〈主体（人物把握）〉

例年、どの問題においても良く出題される。今年度は三つの日程で出題された。主語を答える問いだけではなく「人」とは誰のことか等の問題もここに含むとする。物語の展開上、主体の理解が必要な所を聞く事が多い。動詞や敬語などから主体を考える練習を積もう。基本的なものから難問まで難度は広い。

◎〈本文内容一致〉

どの問題においても必ず出題される。標準的な難度の問題が多い。思い込みで読むのではなく、正確に読む修練を積むことが必要。選択肢の内容と対応する本文箇所を見抜く練習をすること。

◎〈意味〉

どの問題においても必ず出題される（一問〜三問）。「意味」とあるが実際は「解釈」問題。まず傍線部を逐語訳してみることから始めよう。ここで正確に傍線部を訳しておかないと傍線部を逸脱した的はずれな解答を選ぶことになりやすい。逐語訳ができれば、それを元に前後の文章の繋がりから、理解を加えていくとよい。問題によって難度に差はある。

◎〈現代語訳×2 《記述》〉

どの問題においても必ず出題される。標準的な難度の問題が多い。短い傍線部の現代語訳で、毎回二問出題される。最近ではほぼ単語の意味しか尋ねていない問題も増えていたが、今年度は重要単語と重要文法の両方が含まれた箇所にも傍線部が引かれているものがほとんどだった。また昨年度から字数制限（二〇字程度）が設けられた。一語一語を置き換える逐語訳をすることで確実に点を取ろう。

△〈文学史〉

例年比較的出題されるのだが、昨年度は二つ、今年度は一つの日程のみだった。標準的な文学史の理解を問う問題が多いが、切り口がユニークなこともあり、その場合は難度は上がる。どのような角度で出題されても答えられるよう、単なる暗記ではなく、出典を理解しておきたい。特にジャンル、成立時代、その作品の特徴を押さえておくのがお勧め。

○〈空欄補充〉

例年、どの問題においても良く出題される。かつては選択式と記述、両方のパターンがあったが、現在は選択式のみ。単語や文法を入れる問題が多いが、古文常識的な知識が要求されることもある。昨年に引き

続き今年度も和歌中での空欄問題も出題された。前後の文脈を読めば、必ず根拠となるものがあるので、何となく選ぶのではなく根拠をもって選ぶようにしよう。

△〈その他〉

内容説明・理由説明・和歌修辞・指示語内容・和歌大意・抜き出しなど。

IV 昨年度からの変更点：大きな変更点はなし。

まとめ：

- ☆ 出典、設問、どれを取ってもあらゆるジャンル、問題のタイプが出る。
- ☆ 必ず出題されるタイプの問題を中心に対策を。全ての日程の問題を練習として解いておこう。

2 立命館大学の過去問解説

- ・ 2020年2月2日実施の『撰集抄』を使用。（時間の関係により、一部の問題だけを解説することになります。ご了承ください）